

讃岐香川の様々な文化発展を応援します。

文化通

2004

秋

9月1日発行(季刊)

鼎談 「桃山の茶陶」 樂焼茶碗と和物茶碗 その二
特別寄稿 瀬戸内から吹くシネマの風
好評連載 O-hi!茶Gali!/喫茶居
九月から十一月までの茶華道・イベント情報を掲載



伝統と格式を守り育てる

この秋、平成の大遷座祭を斎行される金刀比羅宮では、14名の巫女が日夜舞や琴の稽古に励んでいる。定年30才、独身が条件とのことで、同宮では常に妥協のない巫女の育成が連綿と続いている。

鼎談 「桃山の茶陶」その二

樂焼茶碗と和物茶碗

武者小路千家 家元後嗣 千宗屋
樂家第十五代当主 樂吉左衛門 博
谷松屋戸田商店 社長 戸田博



だから、獅子の瓦で感じられた様々な心沸き立つ動きのある力強い、しかも、こう巻き毛なんかは、こう燃えるようになつていましだけれども、そういうものが一切ここから抜け落ちていいいるわけです。この茶碗から

は、取り除かれているといふのか、捨象されているといふのか、削ぎ落とされているといふのか、引き算されているとか、様々な言葉で言うことができますけど、まず、「大黒」と言うのはそういう茶碗なんです。

それがどう捉えるかということが、とても大切な用です。「用」として、とらえるならばね。

戸田

それは、それを受け取る方の問題が大きいでしょ。

戸田 僕はこの茶碗を見ますと、いつも、いわゆる用の「用、使う」ということ。その意識が強く残されて、いわゆる造形を全部、ある程度もういらないよ。まあ、否定されたと

いうのは、ちょっと大きさかなと思いませんが。要するに利休の示唆で、茶が立てばいいと。利休が、使っていた物を見ると、会席でも土器皿であつたり、本当にシンプルな物であつたりするわけでしょう。要するに、まだお茶の道としても成熟していない原始的な感覚を

利休自体が備えていたと思うわけです。そしてその利休の要求によつて初めて出来上がる、まあ、要求した物が、まさに何でもない物であるわけですが。一方それを用いるという意味の意識は、どうですか？

戸田 要するに、受け取る側が成熟していないと、その意識も全て見えてこない。

戸田 それでは、長次郎の茶碗といいますか、スライドを先やりますか？

樂 まず、最初は天正二年の春、長次郎、命によりこれを造るという在銘の「獅子留蓋瓦」です。大きな瓦で、留蓋瓦といいまして、棟瓦ではなくて、屋根が降りてきた軒先の隅に乘つかる瓦です。誰の命によつて造られたものなのかなは一切分かりません。天正二年とは、信長からいえば、堺を自分の欲下に組み込んでいくという時代です。

本当は、和物茶碗を先にして、これを見るによくわかるんすけれども、これは、明らかに桃山の造形なんです。つまり、生命感にあふれいまにも動きだしそうな表現がなされています。千 むしろ、絵画の方と絡めると分かりやすいでしょう。

樂 そうですね。これは私見ですけれども。絵画だとね、狩野永徳。天正四年に安土城の障壁を描きますけれども、永徳なんかの獅子

とよく似て非常に動きがある。動きつまり動性の表現は桃山の一つのキーポイントだと思います。動きが強い。それから、何でいう

のかな、その動きに乗せながら作者自身の気持ちはそこに造形として表していく。今にも噛みつきそうですし、これが屋根の上で天空の一点を見つめている姿というのは、なかなか勇壯なものがあります。

この長次郎の精神の中に、後の志野や織部に通ずる氣分というものが、この獅子の中にはきっちり感じられるということなんです。

次に、写真を映しかえますけれども、この獅子の像との造形的な落差を感じてもらいたいんです。

樂 そうです。事実、僕はこれではお茶を飲ませていたいたことがあるんですけども、点てたことはありません。でも飲みやすいし点てやすいし。ノンコウ（樂家三代道人）のお茶碗でもそうですが、スープと濃茶が底に寄つていく。

茶碗の中に利休がいて、利休を除外した時には多分、樂茶碗というものは成立しないだろうと思った時に、その用をどう考えるのか。これは、とても静かです。作者の意図とか、そういうものも消されているし、何よりも動きがない。それから、装飾性もない。つまり、ないないないといふ否定の意識の中で、辛うじて存在した、しかも確固たる存在となりえている、そういう作品です。禅語であれば、本来無一物と言つてしまふしかないと思わればいいですよという時の言葉の重さをそ

千 前提として、この時代のお茶というの、お茶を飲むということが目的というよりも、道具・美術品として道具を鑑賞する場で、あんまりお茶を飲むという方に、茶会自体の目的、ウエイトがなかつたと思うんですね。

戸田 そうでしょうねえ。

戸田 でもそれを利休が否定していったんですね。

千 ええ、そうですよね。だから、造形というか、茶碗という必要な存在だけにしてしまつたみたいなどころが…。

戸田 特別な意識の方へお茶を導いていった。その役割を果たしたから、利休が今日までその思想が生きてしまつて、400年経つても、それを越えるような思想性は、お茶の中には

ないという。

樂 あのう、多分ね、越えられないということも事実であります。日本文化といふことは、同じことを常に繰り返して来たと思うんです。それが西洋の文化とのえらい違いです。やっぱり、西洋は、レボリューションしてきた。

千 中国もそうでね、どつちかつていうと。

樂 でも、日本の文化といふのは、同じ一つの感じ方、あるいは同じことを常に言つてきました。だから、侘という言葉にしても万葉集にありますし、それから平安のもちろん、古今和歌集にもありますし、その言葉が、さらに思想化されて利休まで繋がつて、利休から、やつぱり、芭蕉までつながつていくと。それは、皆、同じことを見ているんですね。その時に、利休の茶になつたり、長次郎の茶碗になつたり、雪舟の絵になつたりするわけで、日本文化は、それがおもしろいところで、やっぱり、越えられないもんでしよう。多分。同じ流れの中に、俗しているという感じ…。

千 それこそ伊勢神宮的な感じですよね。二十年毎に建て替えるといふ。

樂 そうですね。

戸田 やつぱり、考え方方が根本的に違う思想。いわゆる、越えることをを目指すんじやなくて、それを保持する。例えば、伝承するという。もちろん、伝承は開花する…。

樂 まあ、そういうところから伝承という意識も、当然生まれてくる。

戸田 例えれば、樂さんの家は十五代長次郎なわけですよね。ヨーロッパの人にはねえ、不思議に思うわけですよ。代々芸術家といふのはどういうことかと聞かれるんですね。この当時は、もちろん芸術家という感覚はないんで

すよね。いわゆる芸術家と呼ばれるような雰囲気は、お父さんの覚入さんぐらいからと、僕等は感じていましたけども、世間では千家十職という名前で、職方という呼び方をしますが、やっぱり、変化していつているわけです。外国人にしますと、一時代にあつた芸術性を否定して、破棄して、そして、また新たな芸術を生み出していくというのが、西洋的思想です。それに引き換えて、日本の茶の世界の場合は思想性というか、禅や儒教や道教、あるいは、中国からきた思想を全部日本化して、純粹化した思想をまた生み出して、そこに神道が交わつたりして、また仏教もそこに入つて生まれて来た、その絡みといいますか、そういうものが、利休がいて、そして利休が生み出して示唆していく茶碗という、こういうだいたい構図でいいんでしょうかねえ。その長次郎の誕生の背景は。

樂 そうだと思います。次は『大黒』の高台です。これもねえ、何気なく見られていますけど、あそこに茶色い土が見えますね、赤い。あれは聚楽土なんです。これおもしろいのは、高台が全部黒く塗られているんです。薬がかかつていています。

利休さんの茶といふのは、確かに、非常に意識的なものです。あんなに権力の中心の世界の中に入つて、侘び茶という正反対のことを探し進めたわざですから、すごい。ですから、高台まで塗りつぶしたこの茶碗の様式も、そこはかなり意識的なものが表わされていると考えられるわけです。

焼き物の好きな人は、みんな高台をまず引つ繰り返して、「ああ、いい高台ですか」と、その次に、「土はところでどこの土ですか」。つて、こう聞かれるんですけど、その見人があつても興味を持ちたい部分でさえ、否定して、削ぎ落として、利休さんは、真っ黒にしてしまつてゐんです。という強い意思が、僕は、やっぱり、この茶碗にはあるよな気がするんです。

外国の人になりますと、一時代にあつた芸術性を否定して、破棄して、そして、また新たな芸術を生み出していくのが、西洋的思想です。それに引き換えて、日本の茶の世界の場合は思想性というか、禅や儒教や道教、あるいは、中国からきた思想を全部日本化して、純粹化した思想をまた生み出して、そこに神道が交わつたりして、また仏教もそこに入つて生まれて来た、その絡みといいますか、そういうものが、利休がいて、そして利休が生み出して示唆していく茶碗という、こういうだいたい構図でいいんでしょうかねえ。その長次郎の誕生の背景は。

リレートーク

いいお地蔵さま

(財)中條文化振興財団理事
株瀬戸内海放送常務取締役

高山桂一



恩師からいちばん大切な宝物を授かったのは三十七年前のことだ。僕は大学の語学視聴覚センターでアルバイトをしていました。指導教官はたいてい若かったから、上品で、目立つておつとりした江戸っ子の老教授（ごめんなさい！）は田舎モノの僕には新鮮で、初めてお目にかかる時から魅せられた。

夜食を共に頬張ることも重なり、恐る恐る話しかけたことから伺つた先生の半生は、

医師で高額所得者の長男。有名大学の付属小学校に入るが医学部進学を果たせず、父親の病院は弟が継ぎ、自分は事務長を兼務しながら、本来好きだった英

文学の道に…というものの。その先生が「恩師」に変わつたのは、いつも背広の内ポケットが膨れていますを質問したのがきっかけだ。

いつもと変わらない穏やかな表情まま、手にとつて見せてくれたのは分厚い財布で、中には一万円札がぎっしり詰まつていた。

「いつもね、持ち歩いてんだよ。一応百円…。

僕はお地蔵さまが好きでね、いいお地蔵さまを見つけたら、持ち主を探して、その場で買つんだよ」。

「その…いいというのは、どんなをい

「もし、君自身がお地蔵さまになるとす。いろんなお地蔵さまがある中で、目の前にある『その姿になりたいな』って心から思つたら、それがいいお地蔵さまなんだよ」。

体が震えたのを今でも覚えている。

いい物だけをたくさん見るんだよ。美術展では「国宝」だけ。その他は一切見ないこと。ホンモノだけを見ていると、分かつてゐるからね。その努力は省略しちゃダメだよ…。

僕は卒業後、新聞記者になり、テレビ局に移り、取材を通じて多少なりとも新しい現象や出来事、モノ、組織、個性溢れる人の生き方に触れることができた。毎日が「初体験」だと思う。その「未知」に

出会つたとき、僕はいつも「いいお地蔵さま」を思い浮かべてゐる自分に気付く…僕の原稿、ニュース、番組。本当に僕はそんな○○になりたいのか？

恩師は道楽息子と呼ばれていたに違いない。今から考えると、そもそも、お地蔵さまコレクターなんて超オタクだし、危ない話だ。ひょっとしたら、あの上品さまは、医師になれなかつた挫折感の裏面なのかも知れない。でも、でも、僕にとって、先生はいつも身近に感じることができる、ホットで優しい「いいお地蔵さま」だ。そして、自分が自分になりたいか…といつも突きつけて来る、怖くて厳しい存在でもある。

Oh! 茶Gail!

その②



今回は高松の会社にお勤めの青井隆恵さんです。お茶を習い始めてまだ一年半ほどだそうですが、茶道との出逢いは高校生の時。学校の行事でお茶会があり、その時の問答が見ていて楽しそうで興味を持ったそうです。

働きだしてからは仕事の関係で決まった時間に習いに行くというのが難しく、また慣れない仕事に追われ遠のいていたそうですが、お友達にお茶会に誘われ「招かれる側から招く側になりたい」という気持ちが強くなり、最近になつて仕事にも余裕が出てきたので、やつと習い始めることが出来るようになつたそうです。

お茶の一番いいところは?という質問に「普段、忙しくて忘れかけている思いやりの心を思い出させてくれる事かな」と言う青井さん。接客を仕事にしているのでその心が生かされているそうです。

喫茶居(二十一) 「芝居のお茶」

昔なつかしい村芝居風景を再現した、れきみん「讃岐の伝承芸能」見本市を観賞しました。広場には、高松の最新スポット・サンポートにある劇場への道案内人が立ち、親切な配慮が伺えました。



従来の脚本に讃岐の幕末事情を書き足した芝居も終わつた中休み、入口でいたいた「わりご弁当」(これが素朴で美味しいお弁当でした)を広げたところに、煎餅やお茶売りのお茶子さんがやつて来ました。扇雀や雁治郎などの役者絵を焼印した煎餅は、九十三歳のおじさんの手焼とか。やがて、「幕あいを拝借いたしまして…」と花の御札口上が始まり、寄付者の名前が読み上げられるたびに、場内に歓声があがつて活気できます。

樂屋で大入袋も出たほどの満員ぶりもスタッフのご苦労があればこそ。商業演劇とは一味違つた工夫の数々で再現された「芝居風景」に、古き良き時代の娯楽の粹を堪能しつつ、買つたばかりのお茶で喉をうるおしました。



十一月

十一月月金「口切り」

利休居士は、柚子が色づくのを見て炉を開き、口切りを催したと伝えられています。ご存知のように口切はお茶の正月です。新茶を挽く茶臼の音、挽きたての新茶の香りをお楽しみ頂けたらと思います。』と樂茶俱楽部の皆様よりメッセージを頂きました。茶臼の音等聴くことの少ない昨今、この機会にぜひお誘い合せてお出かけ下さいませ。

とき 平成十六年十一月二十三日(日)

処 当財団茶室 美藻庵・晴松亭

主席 横石 濃茶席 薄茶席

席料 一萬円 十五名様

入席時間ご案内

第一席 九時

第五席

十二時三十分

第三席 九時五十分

第六席

十三時十分

第三席

十時四十分

第七席

十四時

第四席

十二時三十分

第七席

十四時

各席二時間三十分の予定

毎月第三火曜日は「月に一席の喫茶室」

毎月第四火曜日は「南方録を読みとく」

「月に一度の喫茶室」以外は予約が必要です。お申し込み、お問い合わせは、当財団事務局まで(水曜日休館)

高松市番町二丁目一一一二
(087) 826・3355

007を香川県に呼ぶ秘密情報部事務局長
映画ナビゲーター

帰來雅基

茶道ガイド

江戸千家不白会香川支部 ☎(087)851-5330

9/12 栗林公園月金 席主：中村宗敬
掬月亭 800円 10:00～15:00

財団法人小原流高松支部 ☎(087)833-9274

10/24 濑戸内海歴史民俗資料館特別企画
小原流野外いけばなパフォーマンス
「五色台は秋いっぽいパートVI」
瀬戸内海歴史民俗資料館 9:00～

11/11～14 香川芸術フェスティバル2004参加
小原流いけばな展
「交流と創造ーいのちを結びいのちを繋ぐー」
高松天満屋 7階特設会場 200円 10:00～

表千家同門会香川県支部 ☎(087)874-0458

9/26 表千家流西譜茶会 席主：三豊教授者会
マリンウェーブ 500円 9:30～15:00

11/14 表千家流四季茶会 席主：多田宗和
本覚寺別院 500円 9:00～15:00

琴平月金茶道会 ☎(0877)58-9551

10/10 金刀比羅宮例大祭奉賛茶会
(表千家教授者一同代表・篠原和子)
琴平町文化会館 200円 9:00～16:00

10/10・11 金刀比羅宮例大祭奉賛花展
(池坊・嵯峨・華月・鳳月流)
琴平町文化会館 無料 9:00～16:00

10/24 松尾寺月金(裏千家) 席主：田中宗武
松尾寺 500円 9:00～16:00

11/14 松尾寺月金(裏千家) 席主：宮武宗隆
松尾寺 500円 9:00～16:00

11/23 琴平町文化祭
(官休庵教授者一同 代表・竹井清子)
琴平町アクトことひら 200円 9:00～16:00

12/4・5 歳末助け合いチャリティー茶会
(静風流煎茶・金丸光洋)
町総合センター 200円 9:00～16:00

茶道裏千家淡交会香川支部 ☎(0877)46-1899

9/5 坂出分会月金 席主：土岐宗秀
坂出市勤労福祉センター 500円 9:00～14:00

9/5 鏡音寺分会月金 席主：関宗文
鏡音寺市働く婦人の家 500円 12:00～15:30

9/5 善琴分会木内円珍祭り 席主：稻毛宗敏
金蔵寺 500円 10:00～15:00

9/28 多度津観月茶会 席主：多度津分会担当
多度津町民会館 500円 17:30～20:00

10/3 善琴分会月金 席主：北山宗博

善通寺樟蔭軒 500円 10:00～14:00

10/10 善通寺朝日山献茶 席主：加藤宗敬
朝日山 500円 10:00～15:00

10/24 坂出分会月金 席主：B班担当

坂出市勤労福祉センター 500円 9:30～14:30

10/24 善琴分会月金 席主：田中宗武

琴平松尾寺 500円 9:00～16:00

11/3 坂出分会文化の釜

席主：戸田宗智・島津宗寿

坂出グランドホテル 500円 10:00～15:00

11/3 丸亀芸術祭協賛茶会 席主：分会担当

丸亀生涯学習センター 500円 9:30～15:00

11/7 多度津芸術展協賛茶会 席主：分会担当

多度津総合福祉センター 500円 10:00～15:00

11/14 観音寺分会月金 席主：井下宗貞

観音寺働く婦人の家 500円 12:00～15:30

11/14 善琴分会月金 席主：宮武宗隆

琴平松尾寺 500円 9:00～16:00

11/23 善通寺護国神社献茶 席主：善通寺担当

護国神社 500円 10:00～15:00

11/28 坂出分会月金 席主：早川宗恵

坂出市勤労福祉センター 500円 9:30～14:30

12/5 丸亀分会月金 席主：時岡宗芳

丸亀市生涯学習センター 500円 10:00～15:00

茶道裏千家淡交会高松支部 ☎(087)865-7150

9/5 淡交会高松支部月金 席主：高原

天神会館 600円 9:00～16:00

10/3 淡交会高松支部月金 席主：平野宗芳

天神会館 600円 9:00～16:00

11/7 淡交会高松支部月金 席主：武田宗臯

天神会館 600円 9:00～16:00

12/5 年末チャリティー茶会(点心付) 席主：栗林青年部

天神会館 800円 10:00～16:00

茶 楽 ☎090-6887-0091

9/29 坂出・善教寺(雅楽・舞／和鳴会)
同茶席 500円 18:00～

11/28 栗林公園 掬月亭(財団助成事業)
観月茶会 1000円 15:00～

三癸亭賣茶流高松仙友会 ☎(087)831-4649

10/10 栗林公園月金 掬月亭 750円 9:00～16:00

石州流譜岐清水派石州会 ☎(087)898-6569

9/25 第8回八兵衛茶会 席主：土居宗美

塩江町立塩江美術館 500円 15:00～20:00

9/26 西徳寺月金(東譜茶道懇話会)
席主：横井宗美

池戸西徳時 400円 9:00～16:00

10/31 流祖桐宗閑公332年祭記念茶会
席主：田所宗雪・和敬会有志

玉藻公園披雲閣 1100円 9:00～15:00

11/14 栗林公園月金 席主：石州流譜岐清水派

石州会 掬月亭 710円 9:00～16:00

11/14 塩江町紅葉まつり茶会 席主：土居宗美

行基の湯休憩所 300円 10:00～15:00

草月流香川県支部 ☎(0877)46-0787

9/29～10/4 草月流いけばな展
高松天満屋 500円 10:00～19:30

玉藻公園管理事務所 ☎(087)851-1521

9/8 あけぼの句会 披雲閣

9/11～13 名僧・高僧大墨蹟展(茶会) 披雲閣

10/10 茶道石州流琴松会創立記念茶会 披雲閣

10/24 ライオンズクラブ秋の茶会 披雲閣

10/31 石州流譜岐清水派石州会 披雲閣

流祖桐宗閑公第332年祭記念茶会

11/21 香川大学煎茶部雅遊会茶会 披雲閣

11/28 香川大学表千家流茶会 披雲閣

武者小路千家香川官休会 ☎(087)851-2258

9/5 香川官休会月金 席主：佐々木博子

本覚寺 500円 9:00～15:00

10/17 香川官休会月金 席主：岡田裕子

本覚寺 500円 9:00～15:00

11/7 香川官休会月金 席主：多田洋子

本覚寺 500円 9:00～15:00

次の期間(12月1日から2月末日)の情報を11月10日までにお知らせ下さい。

上記予定は変更する場合もあります。

左ページよりつづく

総合会館アレイックス ☎(0877)86-6800

10/2 松竹特別公演「華岡青洲の妻」 14:00～●
11/14 綾歌吹奏楽団 第6回定期演奏会 13:30～●

綾歌町文化協会 ☎(087)876-1180

11/20・21 第35回綾南町文化祭(作品展示)
綾南町農村環境改善センター 9:00～■

宇多津町教育委員会 ☎(0877)49-8007

11/6・7 うたづ秋の文化祭 ユーブラザうたづ 9:00～■

多度津町民会館 ☎(0877)33-3330

9/11 多度津町文化講演会 13:30～●
9/28 第39回観月会 18:00～●

仲南町教育委員会 ☎(0877)77-2882

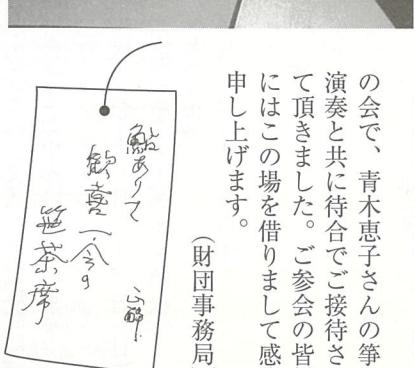
9/1～12 仲南町文化協会展
仲南町農村環境改善センター ■

11/20・21 第46回町民文化祭 中央公民館ほか ■

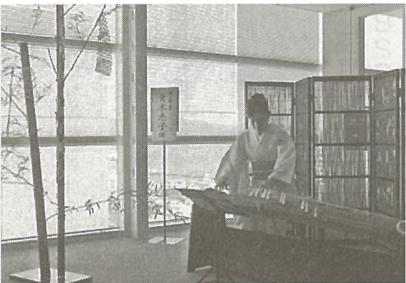
豊浜町教育委員会 ☎(0875)52-1211

9/24～26 第22回豊浜文化祭
豊浜町文化会館 9:00～■

11/5～7 第48回よはま文化祭
豊浜町文化会館ほか 9:00～■



の会で、青木恵子さんの筝の演奏と共に待合でご接待させて頂きました。ご参会の皆様にはこの場を借りまして感謝申し上げます。



第5回高松文化祭展・共催茶会

イベントガイド

香川県県民ホール ☎ (087)823-3131

〈グランドホール〉

- 9/4 第30回記念二期会オペラ公演
「蝶々夫人」 17:30~●
9/5 第30回記念二期会オペラ公演
「蝶々夫人」 13:30~●
10/24 宝塚歌劇座組公演 13:30~・17:30~●
10/28 モーツアルト物語
～モーツアルトの謎に迫るお芝居と音楽～
18:00~●
11/19 松竹大歌舞伎特別公演 松本幸四郎公演
13:30~・17:45~●
11/21 ウラジーミル・マラホフ＆東京バレ
エ団「ジゼル」 17:00~●
〈アクトホール〉
10/3 かがわ声楽講座受講生によるコンサート
13:30~■

香川県文化会館(休館日月曜) ☎ (087)831-1806

〈企画展〉

- 10/15・16 香川県華道選抜秀作展(前期)
15日 10:00~・16日 9:00~●
10/17・18 香川県華道選抜秀作展(後期) 9:00~●
10/30~11/28 生誕100年記念展
イサム・ノグチ ランドスケープへの旅
一ボーリング基によるユーラシア遺
跡の探訪 9:00~●
〈常設展〉
9/4~10/18 明石朴景
一漆・新しいデザインの試み 9:00~●
10/30~11/28 イサム・ノグチ
一あかり・おりがみ 9:00~●

高松市教育委員会文化振興課 ☎ (087)839-2636

- 9/30 デリバリーアーツ事業「能管+洋楽器」
下笠居公民館 14:00~■

高松市美術館(休館日:月曜) ☎ (087)823-1711

- 11/3~12/12 ミュシャ財団秘蔵ミュシャ展
プラハからパリへ華麗なるアール・
ヌーヴォーの誕生 9:30~●

高松市歴史資料館 ☎ (087) 861-4520

- 〈サンクリスタル高松4階特別展示室〉
8/7~9/20 第36回特別展「印刷メディアあれこれ～
近代の教育がみえる～」 9:00~●
10/16~12/5 第37回特別展「仏生山・多肥地区の
文化財」(仮称) 9:00~●

サンポートホール高松 ☎ (087)825-5010

- 〈大ホール〉
9/5 藤間春元弥一門会 夏のおどり 10:00~●
10/11 第7回香川県吹奏樂祭 14:00~■
10/17 都山流尺八演奏会 12:30~●
10/19 鼓童KODO ONE EARTH TOUR 18:30~●
10/21 高松市教育文化祭音楽会 小学校の部 13:00~■
10/23 チャリティコンサート
「梯剛之ビアノリサイタル」 18:30~●
10/24 ケイリン福祉高松コンサート
オーケストラ・アンサンブル金沢
ふれあいチャリティーコンサートin高松
14:00~■
10/30 高松市教育文化祭音楽会 中学校の部 12:15~■
10/31 “スペイン音楽とヨーロッパの雅”II
長山哲/バイオリン・フラメンコ 柳貞子/スペ
インの歌 大背戸亞紀子/ピアノ 14:00~●
〈第1小ホール〉
9/11 華流太鼓「雅美(みやび)」
11th Anniversary Concert 13:30~●
9/17 増田景子フルートコンサート 18:30~●
9/23 ジュニアコンクール高校声楽 10:30~■
10/7 香川日仏協会20周年記念事業
愛の讃歌～エディット・ピアフ～ 19:00~●
10/17 外国人のど自慢・お国自慢大会 14:00~■

- 10/22 石川幸司クラリネットリサイタル 19:00~●
10/30 フルート4重奏のお楽しみ
アンサンブルミュゼット 14:30~●
10/31 ボブシーズ・セカンド・ビッグバンド・ジャズ・
コンサート 18:00~●
〈第2小ホール〉
10/17 愛歌会オペレッタミュージカル15周年公演
源氏物語／アラジンと魔法のランプ
17:30~●

菊池寛記念館 ☎ (087) 861-4502

- 9/4 文芸講座「現代短歌の楽しさ」
サンクリスタル高松3階第1集会室 13:30~■
10/2 文芸講座「『いたずらきんしゃちゅうぢゅう』
の作者リー・バーンを知っていますか?」
サンクリスタル高松3階第1集会室 13:30~■
11/6 文芸講座「古川柳から現代川柳への歩み」
サンクリスタル高松3階第1集会室 13:30~■

オリーフホール ☎ (087)861-0467

- 11/27 「シャンソンコンサート」
問合せ先・別府葉子TEL0238-24-9551

生涯学習センターまなびCAN(月曜日休館)

- 10/15~21 「第46回香川芸術フェスティバル2004
参加行事」心と心の絆
～2004香川からの風にのせて～
(仲間達の陶芸作品80点) 9:30~■

問合せ先・向井ひろ子TEL087-871-4427

トリトンホール ☎ (087)831-5001

- 9/12 イタリア紀行 食と音楽のイタリア旅行
13:00~・17:00~●

ギャラリーen ☎ (087)823-3656

- 11/22~12/4 篠田桃紅展 10:00~■

ギャラリーアコ斯塔ージ ☎ (087)841-8200

- 9/4~30 小樽のガラス展 10:00~■
10/8~31 高見和秀展 10:00~■
11/6~28 秋山陣作陶展 10:00~■

四季ギャラリー ☎ (087)822-9010

- 9/8~30 山内完 栗林公園写真展 11:30~■
10/1~31 木村寿美子 水彩画展 11:30~■
11/1~30 グランマの絵手紙展 11:30~■

ヨンデンスラザ高松 ☎ (087)851-3863

- 10/28~30 高松市内中学校作業学習合同作品展 ■

香川町教育委員会 ☎ (087)879-0231

- 9/12 ひょうけ祭り 14:00~■

10/17 ミュージカル「サウンドオブミュージック」
香川町総合体育館 13:30~■

- 11/6・7 ふるさと香川フェスティバル2004
(第29回香川町文化祭)
香川町総合体育館 9:00~■

牟礼町石の民俗資料館 ☎ (087)845-8484

- 9/1~26 石の里のアーティストたち
石匠の里公園 9:00~■

9/1~26 アキホ・タタ展 石の民俗資料館 9:00~■

- 9/18 バリトントリサイタル(玉置忠徳)
石の民俗資料館エントランスホール 18:30~●

ストーンミュージアム ☎ (087)871-2200

- 10/26~12/5 三枝惣太郎・優二人展2004 9:00~●

さぬき市教育委員会生涯学習課 ☎ (0879)42-3109

- 9/12 さぬき市まちづくり市民大学第1回文化公演会
さぬき市度音楽ホール 14:00~●

さぬき市志度音楽ホール ☎ (087)894-1000

- 9/19 京谷弘司とカルテート・タンゴ&
柚木秀子 特別演奏会 14:00~●
10/17 シブリアン・カツアリス ピアノリサイタル 14:00~●
11/5~7 第4回ハイドンフェスティバルinさぬき市
19:00~●

とらまる公園事務所 ☎ (0879)25-0400

- 9/18~20 第20回レクリエーションと人形劇のカーニバル
とらまる公園各施設 10:00~●

池田町文化協会 ☎ (0879)75-0431

- 10/23・24 第23回池田町文化発表会(展示)
池田町イマージュセンター■

土庄町教育委員会 ☎ (0879)62-7013

- 11/27 NHK交響楽団メンバーによる金管五
重奏団土庄公演
土庄町立中央公民館大ホール 時間未定●

坂出市民ホール ☎ (0877)45-1505

- 10/3 花と筆のハーモニー 時間未定●
10/11 坂出市民芸術祭 12:00~●
11/21 松美会15周年記念 日舞発表会 時間未定●

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 ☎ (0877) 24-7755

- 7/25~9/12 展覧会 やなぎみわ
一少女地獄極楽老女 10:00~●
9/18~11/3 展覧会 猪熊弦一郎展
一遊泳する形一 10:00~●
11/13~1/16 ジャバニーズ・モダン展
一剣持勇の世界一 10:00~●

丸亀市教育委員会文化課 ☎ (0877)24-8822

- 10/1 丸亀城薪能
丸亀城内資料館前芝生広場 17:30~●
10/9~17 第51回丸亀市芸術祭 日本画・洋画
生涯学習センター 9:00~●
10/9~17 第51回丸亀市芸術祭 書道・写真・
彫刻・美術工芸 市立資料館 9:30~●
10/31~11/3 協賛展示 樂焼・さぬき彫り
生涯学習センター 9:00~●
10/31~11/3 生花 生涯学習センター 9:00~●
11/3 お茶会 生涯学習センター 10:00~●

丸亀市民会館 ☎ (0877)23-4141

- 9/16 松竹大歌舞伎 二代目中村翫春襲名披露
14:00~・18:00~●
9/17 千住真理子ヴァイオリンリサイタル
19:00~●

丸亀市立資料館 ☎ (0877)22-5366

- 10/30~12/5 修復からのメッセージ展
一近代における文化財修復の成果一 9:30~●

丸亀市文化協会 ☎ (0877)24-8822

- 9/22~10/3 石井輝夫型絵染展
丸亀市立資料館 9:30~●

あーとらんど ギャラリー ☎ (0877)24-0927

- 9/4~26 白川雅啓展 11:00~●
10/2~24 中川幸夫展 11:00~●
10/30~11/21 関 正和展 11:00~●
11/4~7 秋の茶道具展 11:00~●
11/27~12/19 野坂徹夫展 11:00~●

善通寺市教育委員会 ☎ (0877)63-6328

- 10/30・31 生花展 総合会館ロビー 9:00~●

観音寺市生涯学習課 ☎ (0875)23-3943

- 11/14 観音寺市制50周年記念観音寺市民音楽祭
観音寺市民会館大ホール 12:30~●

●は有料、■は無料、▲は参加料、★は整理券が必要です。(記号表示は判明したもののみ)

「文化通心」第44号は12月1日発行です。次の期間(12月1日から2月末日)の情報を11月10日までお知らせ下さい。 ☎ (087) 826-2212

上記予定は変更する場合もあります。

平成16年度
文化講演会

光の画家

木村忠太の世界



「ニコラ・デ・ション寺院」

整理券(資料代500円)を発行致しますので
参加ご希望の方は当財団事務局までお申し
込みください。

舞遊の会
十三夜、祇園宮にて
月見の宴

秋の夜長、十三夜、お月見の会。
料亭二蝶のお料理と遊心庵が撰
抜する日本酒で、おもてなしを
させていただきます。酒宴の極み
を是非お楽しみ下さいませ。

●とき 9月26日(日)
午後6時より

●場所 中條文化振興財団茶室
晴松亭

●席料 28,000円(税込み)

●定員 40名様 先着

●お申し込みお問い合わせは
料亭二蝶

電話087・851・7166

〒760-0017 高松市番町二丁目一一一
(財)中條文化振興財団編集部
TEL(087)826・3355
FAX(087)826・2212

秋の文化講演会 第2弾

演題

「文化の力と瀬戸内海」



講師

大原謙一郎氏

(大原美術館理事長)

一九七七年高松市に生まれ、
五三年に渡仏。以後三十年
以上フランスに暮らし制作
活動を続け、八三年にはフ
ランス芸術文化勲章を受章した。抽象画で獨
自の境地を切り開き、米国では「日本のピカ
ソ」とも評された木村忠太について、氏の実弟
倉敷市の財団法人大原美術館より理事長の大
原謙一郎氏を高松にお迎えして講演会を開
催させて頂く運びとなりました。環瀬戸内海
という、より大きな視野で文化について見直し
てみませんか。皆様のご参加をお待ちしてお
ります。

して。この機会に是非地元出身の芸術家につ
いて知つていただければ幸いです。

■とき 平成十六年十月三十日(土)

■場所 高松市美術館 講堂

■料金 1000円

お申し込みは当財団事務局まで

中條文化振興財団・助成金交付事業

茶の湯をさらに楽しむ会

ワーケーションズ

『利休以前の茶・闘茶について』



講師

熊倉功夫氏

(林原美術館館長)

先頃NHK人間講座『京料理千二百年 和
の味の追求』に出演された熊倉先生に闘茶に
ついてお尋ねしたところ群馬県中之条町に残
る国指定重要無形民俗文化財、「上州白久保
のお茶講」の存在を教えていただきました。十
四世紀中頃の闘茶のやり方を現在に伝えてい
る貴重な民俗行事のことでした。熊倉先生の
講演に加えて今回は、白久保お茶講保存会
のご協力も頂いてワーケーションズで再現できれば
と準備を進めておりますのでこの機会をお見
逃し無く是非ご参加下さいませ。

■とき 平成十六年十一月七日(日)

■開場 午後1時 開演 午後1時三十分

■場所 香川県歴史博物館・地下講堂

■料金 1000円

お申し込みは当財団事務局まで

編集後記